

1962年

## フリーハンデ

ルカ(牡 ヒカルメイジ)クーンズジェスト)が首位にランクされた。一哩を1分38秒7のレコードもさることながら、そのレースぶりのあざやかさは、今年のダービーはこの馬で仕方ないと思わせるほどのものだった。向正面までは各馬が懸命に先を争うのをよそに悠々と最後方を行き、直線、一気に抜けたしテライチをさしきったレースは、古馬の強豪を思わせるものがあり、これが三歳馬かと舌を捲かせた。

一方、人気を二分したテライチ(牡 シマタカ)トミユキ)は、福島以来八連勝の成績をひっさげての出場で、三角では早くも二番手に上り、直線先頭に躍り出たときは勝利はこの馬のものともみられた。がグレートヨルカが余りにも強過ぎ、九連勝を飾れなかったのは不運の一語に尽き、この馬の活躍は忘れることができない。しかし、朝日盃でハッキリ勝負付けがついた以上、1キロの差は妥当なところだろう。

朝日盃三着のクニイサミ(牡 カリムIIキヤツスル)は、東京、中山のステークスの優勝もあるが、テライチとの着差からいって2キロ程度の差はあろう。牝馬のナンバーワンスタンダード(牝 スタンダードIIハイヌーン)は五勝、暮れの牝馬ステークスの勝ちっぷりが高く評価されたものだろう。

カリムモア(牡 カリムII武兆)は新馬の二戦目で一二〇〇メートル1分10秒7の日本レコードを樹立。この勢いではどこまで強くなるか予測もできないくらいだったが、脚部不安のため、朝日盃は本調子なく本領発揮で

きなかった。東京の新馬から中山のオープンを二連勝したランオンワード(牡 ソロナウエーIIサヤニヒル)は前記の馬に遜色のない資質に恵まれていると見られたが、種子骨骨折で挫折したのは惜しまれる。ヒヨシホマレ(牡 ライジングフレームIIウミミドリ)はジュニヤークアップ優勝の印象も残っていることだろう。その他、カネノヒカル(牡 ヒカルメイジIIカネカオル)、キングダンディ(牡 ハロウエーIIシヨウゲツ)らまでは今年のクラシックをみざす馬だろう。

### きめ手となったステークス

関西では阪神三歳ステークス優勝馬コウタロー(牡 ヒンドスタンIIグレイベルベット)が55キロで首位。関東馬と比較して果して55キロが妥当かどうかは、計る術もないが5戦3勝の戦績、毎年の東西の差からいって、まづこんなところか。

一キロ差の二位はコウライオー、チトセリパー、トサクイン、ヤマニンパールの四頭がくつわを並べた。

コウライオー(牡 リンボーIIダイヤナルビー)は四回阪神の特別に勝ち京都のステークスはチトセリパーに首の惜敗二着。しかし阪神三歳ステークスでヤマニンパールをおさえて二着した戦績を買われた。チトセリパー(牡 ハクリヨウIIオーミザクラ)には前記コウライオーを破った京都のステークス優勝がある。朝日盃では一番人気となったほどだが、四着に終り大きく減点された。トサクイン(牝 トサミドリIIミアンダー)は中京か

エクスペリメンタル・フリー・ハンデキャップなどという、親しみにくいかも知れないが、相撲の番付表のように考えて頂ければよい。ここに掲載した一九六二年のフリー・ハンデとは、昨年度の出走馬の格付けである。フリー・ハンデ製作は関東、関西のハンデキヤッパ、宮原、木村、吉田、小野、児玉の五氏にお願いした。なお、関東、関西はふだん別個に競馬をしているため、一応の基準に従って、ここでも別々に取扱った。

フリー・ハンデとはハンデ競走にハンデをつけるのと異り、一年を通じてのランキングである。本来なら、三歳、四歳、古馬のそれぞれの分野について解説をかえなければならぬのであるが、四歳以上についてはすでに知りつくられている、ここでは三歳馬だけにとめておこう。

### 強かったグレート

関東の場合は朝日盃で快勝したグレートヨ

〔関 東〕

順位	三 歳	ハンデ	四 歳	ハンデ	五歳以上	ハンデ
1	グレートヨルカ	58	リュウムサン	60	オンスロート	65
2	テライチ	57	コレヒサ	59	タカマガハラ	63
3	クニイサミ	55	ヒロキミ	59	トウコン	62
4	スタンダード	54	アサリエウ	58	エムローン	60
5	カリムモア	53	フェアウイン	57	クリヒデ	58
6	ヒヨシホマレ	53	ヤマノオー	57	ゴウユウ	57
7	ランオンワード	53	カネツセーキ	57	ハクオウ	55
8	キクノヒカリ	52	スズホープ	56	オカメ	53
9	カネノヒカル	52	ケンホウ	55	クリバン	53
10	スズコトブキ	52	リュウゼツト	54	トキクイン	52
11	キングダンディー	51	キクノハタ	54	アサカブト	51
12	ミオソチス	51	ナスノニシキ	53	エベリット	51
13	ガゼールターフ	50	ヒシフレーム	52	スズキオー	51
14	ヤシマジヤパン	50	ヒシツヨシ	51	ビッグヨルカ	51
15	ユメドノ	50	アサユキ	51	ユーデルワイス	50
16	リヤトリス	50	オーハヤブサ	50	アルパニー	50
17	ヒノモト	50	ルーキー	50	クサナギ	50
18	スズカンゲツ	50	アズトツブラン	50	セナリ	50
19	イロハ	50	フアラディバ	50	ブルーダイヤモンド	50
20	フジノホマレ	50	ナスノミドリ	50	ボールドゲャー	50

〔関 西〕

順位	三 歳	ハンデ	四 歳	ハンデ	五歳以上	ハンデ
1	コウタロー	55	リュウフオーレル	59	コダマ	63
2	コウライオー	54	ゴールデンスター	58	シーザー	63
3	チトセリバー	54	ビカルポーラ	57	ヘリオス	61
4	トサクイン	54	モトイチ	56	グレートスタン	58
5	ヤマニンパール	54	オヤシオ	55	ホマレタイコウ	57
6	カームメント	53	タカシゲ	55	リュウライト	56
7	パスポート	53	バツキングム	54	シズマサ	55
8	アイスブルー	52	ハルヒカリ	54	タイゴンオー	55
9	アンデス	52	カツラエース	53	トキノキロク	55
10	コバンオー	52	ツバサリユ	52	ミスケイコ	55
11	シヤチサカエ	52	ミスズ	52	スズカリユウ	53
12	シヤラツク	52	イスタンブール	51	マルニロール	53
13	タカミヤジ	52	オーステーツ	51	ランチャー	53
14	テイオー	52	チトセハーバー	51	チトセホープ	52
15	トリユウ	52	マサクイン	51	ミスハツライ	52
16	マサタカ	52	マニーボツクス	51	ヤマサカエ	52
17	マルクラ	52	ヤマニンフレーム	51	イーグル	52
18	ワカシラオキ	51	ヨシシオ	51	ミュキホマレ	51
19	アイポリ	51	ルボツク	51	エイシユン	50
20	オンワードタイト	51	ライジングマサル	51	クラツクリユウ	50

ら四回京都まで四連勝、その後ヤマニパールに敗れてから出走していないが、初期の実績でこの位置を得た。またヤマニパール(牝 ソロナウエーIIアスエ)も四回京都の新馬からステークスを含めて三連勝したが、

しばらく休んで出走した阪神三歳ステークスは三着。カームメント(牡 カリムIIトモエ)は暮れの中距離特別の優勝、パスポート(牝 パールダイヴアーIIヴェルラ)は阪神の三歳牝

馬特別に優勝している。これ以下になるとほとんどハンデ差もつけられないくらいで、ただ海のものとも山のものとも分らない。当然のことながら、今年の新馬から出走したメイズイなどは含まれない。